

令和2年度学校評価（後半）を振り返って

学校評価にご協力ありがとうございました。

令和2年度学校評価（後半）の集計結果をお知らせします。

今年度も保護者の皆様、児童（低、高学年別）、教職員による評価（振り返り）をアンケート形式でご協力いただき、保護者の皆様には全児童数の96%のご回答をいただきました。ありがとうございました。

洛央小学校では、「学びの広がり、深まりとつながりのある学校」を教育目標とし、「～他者と協働し、学び合う子の育成～」をめざす子ども像として、教育活動を進めています。今回の集計結果を真摯に受け止め、後半以降の教育活動の改善に繋げていくように活用させていただきたいと考えております。

① 子どもは自ら学ぼうとしていますか。（保護者）

自ら学ぼうとしていますか。（児童）

子どもが自ら学ぶように支援していますか。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	36.1%	51.9%	11.4%	0.6%
児童（高学年）	33.1%	46.9%	18.4%	1.6%
児童（低学年）	42.1%	42.1%	12.9%	2.9%
教職員	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

「自ら学ぶこと」については、前半に引き続き8割以上の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。前半・後半ともに8割以上の児童が、自ら学ぼうとする意欲をもっているという結果を非常に頼もしく感じています。

来年度以降も、自ら学ぶことを進んで行う児童を育てるために、学習することが楽しいと感じられるよう授業を工夫したり、児童自身の興味関心を的確につかんだり、学習した成果を適切に認め励ましたりすることを、継続していきたいと思います。

② 子どもは嫌なことでも我慢して頑張ることができますか。（保護者）

いやなことでも我慢して頑張ることができますか。（児童）

嫌なことで我慢して頑張ることができるよう支援・指導していますか。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	28.4%	58.1%	12.0%	1.5%
児童（高学年）	35.4%	45.9%	16.7%	2.0%
児童（低学年）	58.0%	29.7%	9.0%	3.3%
教職員	33.3%	63.4%	3.3%	0.0%

「我慢して頑張ることができる」については8割から9割の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。高学年児童の「あまりそう思わない」の回答が前半より5%程度増えました。しかし全体的には、前半と同様「我慢して頑張ることができる」児童の様子がうかがえます。

学びを広げたり深めたりするには、苦手なことでも我慢して粘り強く取り組むという経験や実践が必要な時もあります。児童の成長にとって必要な時には、我慢してやり抜くことができるよう、来年度以降も支援したり指導したりしていきたいと思います。お家でも、苦手なことをやり抜いた時などにほめる言葉をかけていただければうれしいです。

③子どもは友達と力を合わせて活動することができていますか。(保護者)

友達と力を合わせて活動することができていますか。(児童)

友達と力を合わせて活動することができるよう支援・指導をしていますか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	49.2%	47.0%	3.2%	0.6%
児童（高学年）	58.5%	32.9%	7.4%	1.2%
児童（低学年）	63.6%	28.8%	5.8%	1.8%
教職員	58.4%	41.6%	0.0%	0.0%

「友達と力を合わせること」については前半に引き続き、9割以上の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。

感染拡大防止対策をしながらも、授業では課題を解決するために協力する場面があります。授業以外にも様々な場面で、お互いの力を必要とすることが数多くあります。お互いを認め合いながら、来年度以降も力を合わせて活動を進めてほしいと思います。

④子どもは他の人に優しくすることができますか。(保護者)

他の人に優しくすることができますか。(児童)

他の人に優しくすることができるよう支援・指導をしていますか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	53.5%	44.0%	1.9%	0.6%
児童（高学年）	46.6%	43.3%	7.3%	2.8%
児童（低学年）	59.3%	33.2%	5.7%	1.8%
教職員	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%

「他の人に優しくすること」についても、前半に引き続きほぼ9割以上の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。「他者と協働し、学び合う子の育成」という本校のめざす子ども像に照らしてみると、他の人に優しく接することでお互いの信頼感が増し、他者との協働が一層図られることにつながるように思います。設問③とも合わせ、友達と協力し、他の人に優しくできる児童であり続けてほしいと願っています。

⑤子どもは自分のことを大切に思っていますか。(保護者)

自分を大切に思っていますか。(児童)

自分のことを大切に思えるよう支援・指導をしていますか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	50.7%	46.3%	3.0%	0.0%
児童（高学年）	53.1%	29.7%	12.7%	4.5%
児童（低学年）	74.7%	15.5%	6.2%	3.6%
教職員	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%

「自分のことを大切に思う」についても8割から9割の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。前半と比べると、「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答が、高学年では6%程度、低学年でも3%程度増えていました。児童の話をしっかりと聞いたり思いを受け止めたりすることを続けていこうと思います。

一般的な発達段階を踏まえると、学年が上がるにつれて自分を客観視する視点が芽生えます。こうした時でも、児童本来の良さや可能性を具体的に伝えたり認めたりする、あたたかい関わりを目指していきたいと思います。

⑥子どもは最後まであきらめずに取り組むことができていますか。(保護者)

最後まであきらめずに取り組むことができていますか。(児童)

最後まであきらめずに取り組むことができるよう支援・指導していますか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	28.7%	57.8%	12.3%	1.2%
児童（高学年）	41.8%	41.1%	13.0%	4.1%
児童（低学年）	54.3%	33.8%	9.0%	2.9%
教職員	55.0%	41.7%	3.3%	0.0%

設問②の「我慢して頑張ることができる」と同様には8割から9割の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。粘り強く頑張って取り組もうとする態度や姿勢をもっていることを頼もしく思います。ただ、「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合も10%～15%程度あります。こうした児童への励ましも大切であると感じています。

我慢して粘り強く取り組み、最後までやり通すことは生き方にもつながります。あきらめずに取り組む姿勢を身に付けられるよう、様々な場面で支援していきたいと思います。

⑦子どもは進んで運動していますか。(保護者)

進んで運動していますか。(児童)

進んで運動できるよう支援・指導をしていますか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	39.4%	37.7%	19.1%	3.8%
児童（高学年）	49.5%	22.0%	21.6%	6.9%
児童（低学年）	60.7%	25.5%	9.8%	4.0%
教職員	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%

「進んで運動すること」については「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した、保護者、低学年の割合は前半に比べるとやや減りました。高学年児童、教職員の割合は微増していました。進んで運動していないという児童は一定数いると思われます。

休み時間には外に出て活発に体を動かす児童がいる一方、読書をしたり、絵を描いたりすることが好きな児童もいます。健やかな成長のためには、運動をすることも大切です。今年度は、感染拡大防止対策として、運動場や運動用具の利用制限があったことも影響があるかもしれません。来年度には運動できる機会を作れるよう考えていくたいと思います。

⑧子どもは好き嫌いせずバランスよく食べていますか。(保護者)

好き嫌いせずバランスよく食べていますか。(児童)

好き嫌いせずバランスよく食べるよう支援・指導をしていますか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	32.2%	46.2%	16.7%	4.9%
児童（高学年）	44.5%	33.6%	17.0%	4.9%
児童（低学年）	51.5%	29.3%	14.4%	4.8%
教職員	60.1%	33.3%	6.6%	0.0%

「好き嫌いせずバランスよく食べること」については、どの立場においても「そう思う」「大体そう思う」と回答した割合が、前半に比べて増えました。非常にうれしく思います。設問⑦と同様に、健やかな成長のためには、食事も大切な要素の一つです。学校給食では栄養のバランスを考慮して献立を作成しています。好き嫌いがあるのは当然のことですが、バランスよく食べられるような工夫や支援の仕方を来年度も考え、健康な体を維持できるような取組を進めていきたいと思います。

⑨子どもは安全に気を付けて生活することができますか。(保護者)

安全に気を付けて生活することができますか。(児童)

安全に気を付けて生活することができるよう支援・指導をしていますか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	39.3%	55.8%	4.3%	0.6%
児童（高学年）	57.6%	33.5%	6.9%	2.0%
児童（低学年）	67.4%	23.9%	6.5%	2.2%
教職員	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%

「安全に気を付けて生活すること」については、ほぼ9割以上の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。アンケート結果からは、安全に対する意識が非常に高いことがうかがえます。交差点では信号をよく見て横断歩道をきちんと通る児童や落ち着いて歩いて登下校する児童が数多くいる一方、ついつい歩道を走ったり、歩道から外れて通行したりしている児童の姿を見かけることもあります。特に、下校の時に気が緩んでしまい危険な振る舞いや行動になるように感じています。事故が起きてしまってからでは取り返しがつきません。安全に対する高い意識を実際の行動に表すことができるよう、来年度も指導を続けていきたいと思います。また、警察や子ども見守りたい、PTAなどの皆様とも協力する取組も進めていければと考えています。お家でも引き続きお声かけいただければ幸いです。

⑩子どもが目標をもって学習したり生活したりしていますか。(保護者)

目標をもって学習したり生活したりしていますか。(児童)

子どもが目標をもって学習したり生活したりするよう支援・指導していますか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	26.1%	50.1%	20.6%	3.2%
児童（高学年）	40.9%	34.4%	17.8%	6.9%
児童（低学年）	56.5%	30.1%	8.0%	5.4%
教職員	63.4%	33.3%	3.3%	0.0%

「目標をもって学習したり生活したりすること」については「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した保護者、高学年児童が約23～25%でした。低学年児童では前半よりやや減少して約13%でした。学習や生活に対して目標をもつためには、動機づけが必要です。「こうなりたい」「こんなことを目指したい」という意識を子ども自身がもてるよう、声かけや支援をしていくことが大切であると思います。目標をもって取り組めるように、どんな力を付けていくのかを児童に示したり、身に付けた力をどのようなことに活かすのか話したりする機会を様々な場面でもちたいと考えています。ご家庭でも学習や生活の中での目標についてお話しやすく機会をもっていただければありがたいです。「生き方探求パスポート」も今後一層、有効に活用できるようにしていきたいと思います。ご協力よろしくお願ひいたします。

